

H30年度第1回SGH連絡協議会・連絡会 分科会資料

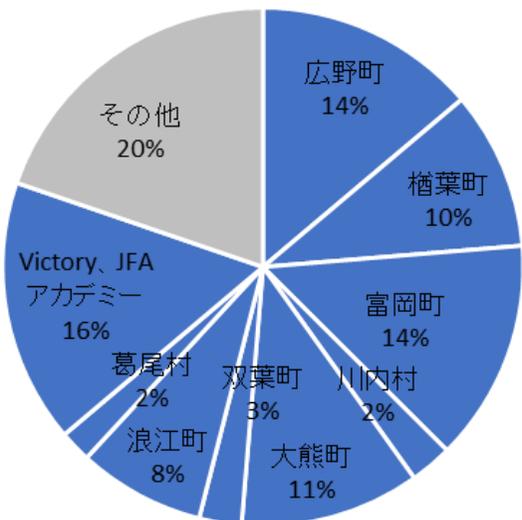
# SGHを中心とした教育課程の編成と展開

英文字はタンポポの綿毛 風に乗って世界に広がって欲しい

「未来」文字 夢や希望が築かれていく

2018年6月29日（金）  
福島県立ふたば未来学園高等学校

## ○ 生徒の出身地（H27入学生152名）



- ✓ 80%の生徒が双葉郡出身
- ✓ 原子力災害による避難で県内外に離散。
- ✓ 大きな喪失経験の中、転校を繰り返す中で、力を発揮できずいたり、心のケアが必要な状況。家庭環境の変化も含め**厳しい状態**にある
- ✓ 一方で、ふるさとの地で、友と共に再出発し、見通しの見えない**地域復興を担おうとする意欲**をもつ生徒が多い。

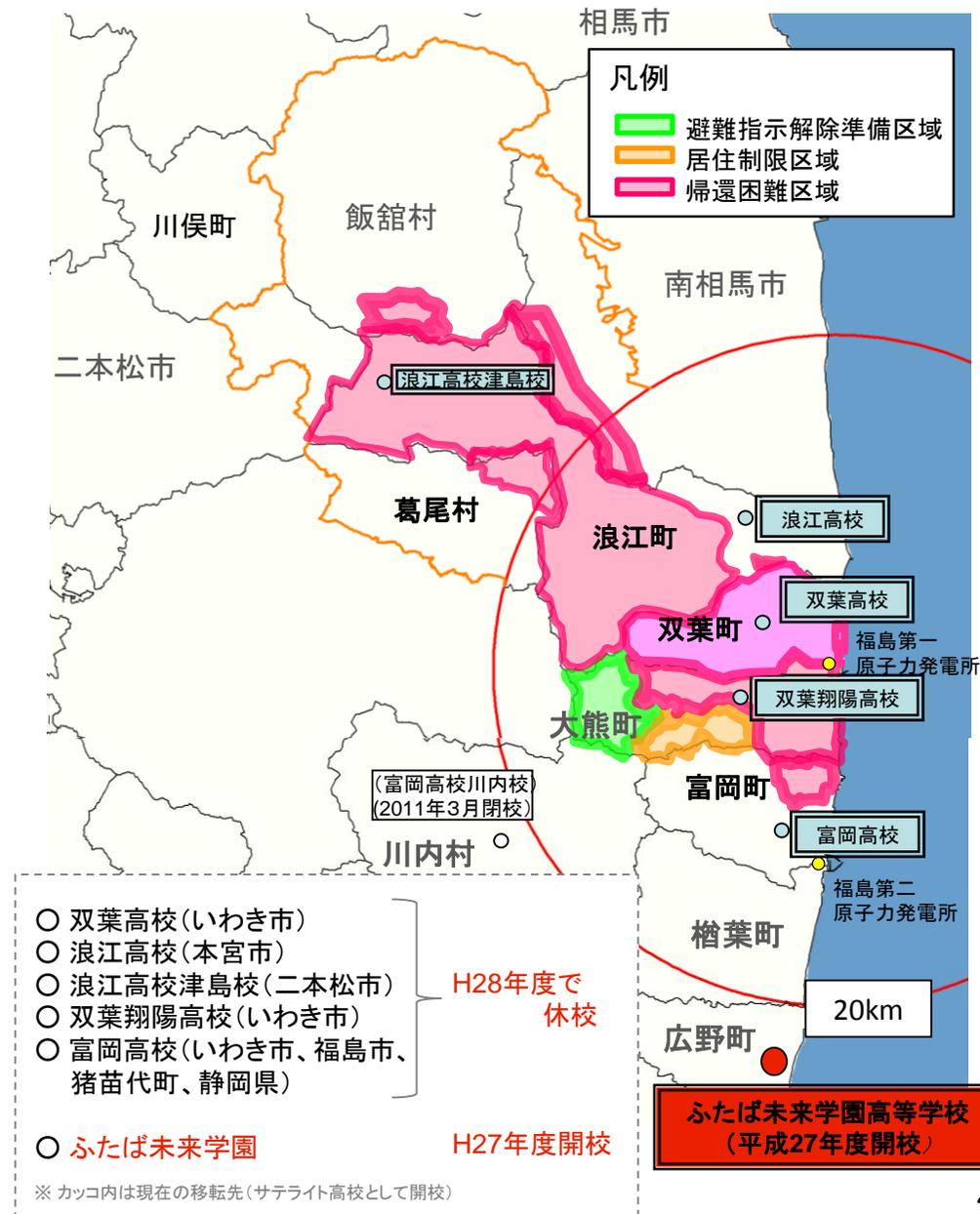
## ○ 生徒の避難の状況

生徒名	原発事故から入学までの移転
T. A 君★	いわき市
K. E 君	榎葉町→会津美里町
Y. K 君	広野町→いわき市→新潟県 →いわき市→広野町
R. K 君	榎葉町→埼玉県→いわき市
Y. S 君	富岡町→茨城県
K. S 君	広野町→いわき市→広野町
T. N 君	広野町→静岡県→いわき市 →広野町
R. N 君	浪江町→新潟県→二本松市 →いわき市
A. M 君	双葉町→山形県→棚倉町 →いわき市

生徒名	原発事故から入学までの移転
K. M 君	広野町→埼玉県→いわき市 →広野町
T. Y 君★	白河市
T. Y 君	富岡町→千葉県→いわき市
K. I さん	榎葉町→いわき市→東京都 →いわき市
H. I さん	浪江町→相馬市
T. T さん	榎葉町→いわき市
K. F さん	榎葉町→宮城県→いわき市
M. M さん	葛尾村→本宮市→三春町 →郡山市

一例として野球部の生徒17名の避難状況を記載。  
★は双葉郡以外の出身生徒

## ○ 双葉郡内の高校の状況



震災と原発事故という、人類が経験したことがないような災害にみまわれた、わたしたちは、解決困難な様々な課題に直面



これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、新しい生き方、新しい社会の建設を目指さなければならない。

## 【教育目標】

自らを変革し、  
地域を変革し、  
社会を変革していく  
「**変革者**」を育成する

### ○ 『変革者』として必要な資質・能力を育成

- どんなに困難な問題に対しても、論理的思考力、課題発見・解決力、強い志と使命感を持って、何度失敗しても挑戦し続ける「**主体性**」
- 異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築し多様な主体と共に力を合わせる「**協働性**」
- 新しい生き方、産業、社会をつくりだしていく「**創造性**」

### ○ 目指す学校像

- 生徒が主体的に動く学校
- 失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え、応援する学校
- 現実社会の中で学ぶ学校
- 地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校
- 夢を開く窓がたくさんある学校

## ○ 教育課程等

- 3つの系列からなる総合学科の高等学校。

**アカデミック系列**  
進学に対応した科目選択

**トップアスリート系列**  
部活動に連動した「スポーツⅡ」、  
「スポーツⅢ」を選択

**スペシャリスト系列**  
農業、商業、工業、福祉に関する  
科目選択

- 多様な生徒に対応する、英語、数学、国語での徹底的な習熟度別授業と、課外学習を実施。
- 課題解決力等の汎用的能力を上げていくために、**3ヶ年のうち合計8単位の「総合的な学習の時間」等をカリキュラム全体の軸として位置づけ**。大学の推薦入試やAO入試にも対応。  
(総単位数 32単位/年、全96単位)
- 平成27年度に双葉郡8町村の中学校との連携型中高一貫校として開校。  
平成31年度には併設中学の開校を予定。高等学校定員は一学年160名、中学校定員は同60名。

## ○ 教育課程表 (H30入学生)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	国語総合			数学I			コミュニケーション英語I			体育	保健	音楽I 美術I 書道I	家庭基礎		化学基礎	現代社会	生物基礎	社会と情報	産業社会と人間		進路に応じた選択科目					LHR						
2年次	体育	保健	地学基礎 物理基礎 生物基礎		世界史A 日本史A		コミュニケーション英語II			未来創造探究			進路に応じた選択科目															LHR				
3年次	体育	未来創造探究		進路に応じた選択科目																											LHR	

# アカデミック系列

東北大学など難関大学

国公立大学、私立大学

特定の教科を重点的に学ぶなど進路実現のための科目選択

## 徹底した学力向上対策

7校時授業  
導入(週2日)

放課後・休日の  
補習指導

英数国は完全習熟度別指導

現実社会で学ぶ探究活動と  
アクティブラーニング

## 著名大学から指定校推薦枠

青山学院大学2名

専修大学3名

立教大学2名

津田塾大学1名

東北学院大学2名

東洋大学1名

その他地元を含め数多くの大学

# スペシャリスト系列

農業、工業、商業、福祉

就職、進学

将来の進路、興味・関心に応じて専門分野を深く学ぶ

## 夢を実現する多様な学び

農業

お菓子作り  
草花栽培

商品  
開発

ビジネス

商業

資格取得(介護、農、工、商)

工業

ものづくり  
再生可能エネルギー

介護、福祉

福祉

農業の授業でパン作り



工業:自作の電気自動車  
でレース参加



商業の授業で商品開発



福祉:介護の  
資格取得



# トップアスリート系列

野球、サッカー、レスリング、  
(バドミントン(猪苗代のみ))

授業、部活で専門種目の  
実技、理論を深く学ぶ

## トップアスリート育成

全国大会出場、  
上位入賞

充実した練習  
環境・施設

一日に2時間程度、専門種目や  
スポーツについて学ぶ

男子サッカー 新人戦 県3位!  
県一部リーグ昇格! 全国を目指す。



女子サッカー  
全国大会出場を目指す



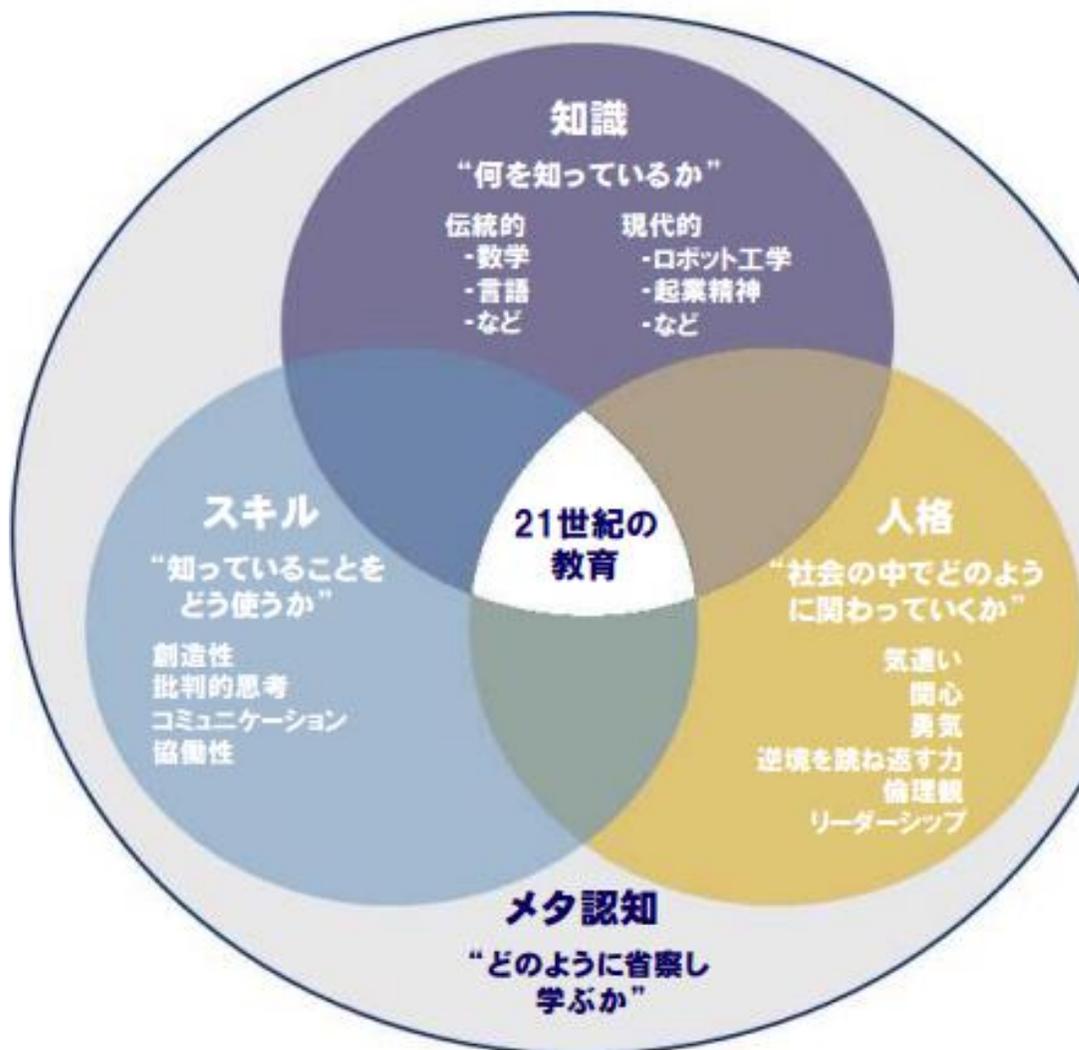
34年ぶりのノーヒットノーランで夏初勝利  
地区初優勝! 甲子園を目指す野球部



レスリング 全国ベスト8!



## ○ 全教職員で、育てていく力を設定



創造

学力概念	No	資質・能力・態度(まとめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題についての基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深掘し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	英語活用力 英語を使つてのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A2レベル)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR B1レベル)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2レベル)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C	思考・創造力 物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考えることができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれずに創造的に考え、新たなアイデアを生み出せる。
	D	表現・発信力 どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも億せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	ICTを活用したり、データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えながら分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って熱に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等乗り越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者の中で、決められたことや指示されたことに一人で取り組むことができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者の中で、他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進めることができる。	集団や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。ICTを活用して協働を促進することができる。	文化や国境を越えて、社会を変革する行動にうつし、互いに高めあう同志としての関係をつくれる。
F	マネジメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を待たず、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりや、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担できる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。	
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	G	前向き・責任感・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好き、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	集団や他者の中で、自分の役割を見つけていることができ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
	H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようとする事ができる。	集団や他者の中で、他者を気づかえる。	集団や他者の中で、相手の立場や考えを想像し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽しめる。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。
	I	能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語る事ができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方策を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標と関連づけて大局的に行動できる。

自立



## スーパーグローバルハイスクール事業

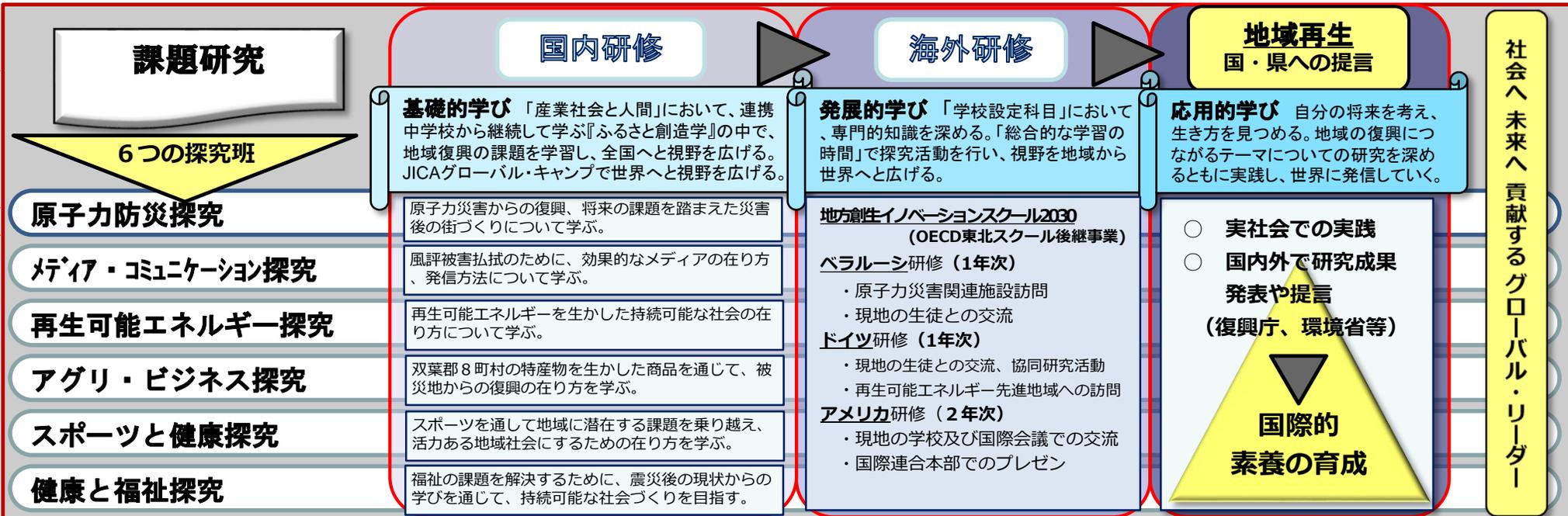
～原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーの育成～

福島県立ふたば未来学園高等学校



◆ 目的：社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、福島県の復興に寄与するグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

- 地域、国内から海外へと視野を広げるとともに、未来創造のために実践を通して学んでいく。
- OECD、JICA、福島大学、地域内外の企業、イノベーションコースト構想関連機関等との密な連携を行っていく。



先進の学びで地域へ、地域から世界へ、未来へ **社会に貢献する人材の育成**

各学年次での実社会での実践を通じた学習

#### 「産業社会と人間」2単位

- ◆ 「ふるさと創造学」を通じて、地域の復興の課題を多面的に見つめ、復興への取り組みを実践していくことで、自らの生き方を考える授業
- ◆ 平田オリザ氏の指導を受けながら、地域をフィールドワークし、復興に向けた課題を発見して「演劇」として表現する授業
- ◆ 「JICAグローバル・キャンプ」では、海外青年協力隊経験者や国際的に活躍する講師陣がリレー形式で授業を実践する。世界が抱えている課題を知り、国際的な視点で物事を考え視野を広げていく授業

#### 「学校設定科目」2単位、「総合的な学習の時間」5単位

- ◆ 6つの探究班に分かれ、「学校設定科目」で関連する知識を学びながら、「総合的な学習の時間」の中でグループでの研究・実践や、個人研究に取り組む。
- ◆ 風評被害の払拭に取り組む農家での就業体験
- ◆ 国際フォーラム、総合学科高等学校生徒研究発表会での発表
- ◆ 福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想との連携
- ◆ 「OECD地方創生イノベーションスクール2030」への参画を通じた、海外の高校等との研究交流 等

1年次

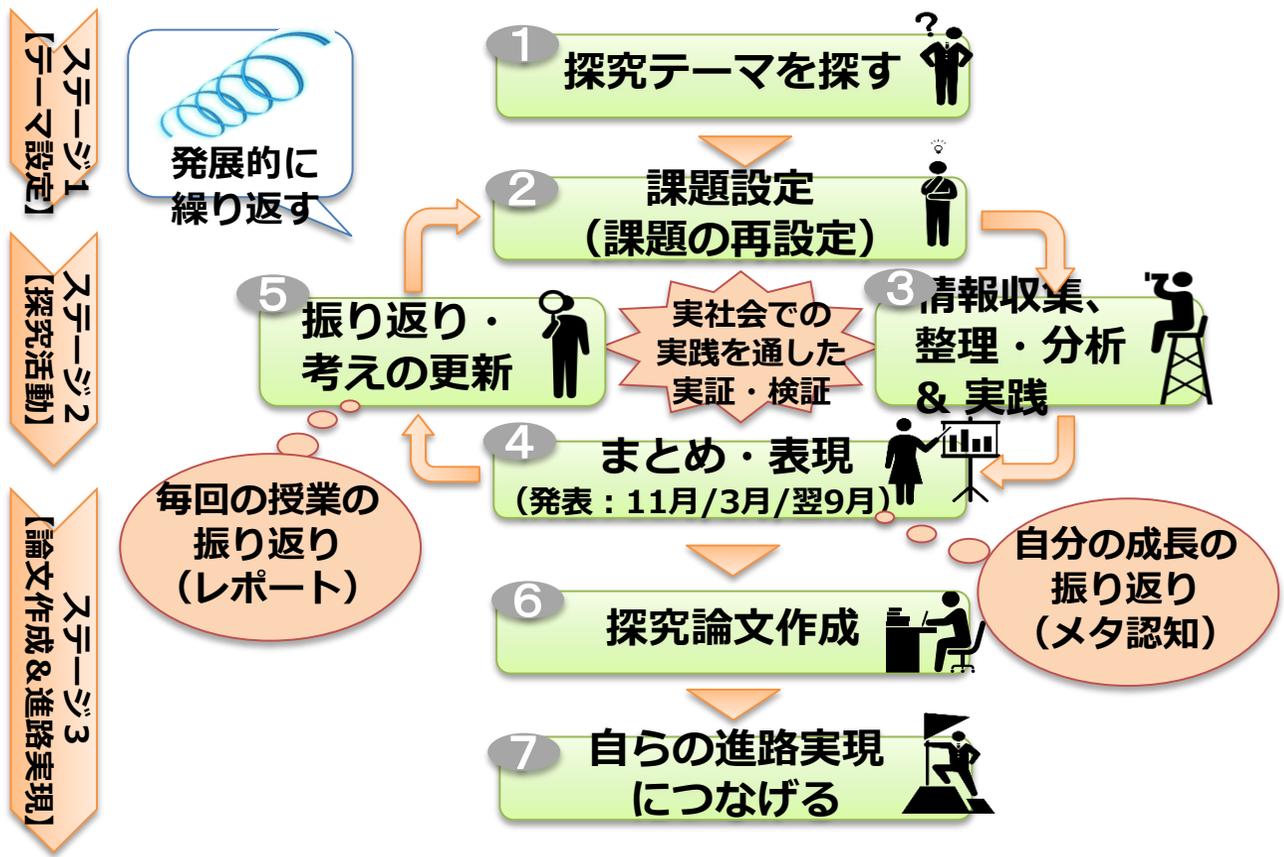
2年次

3年次

授業名	ステップ
ふるさと創造学 産業社会と人間 [2 単位]	1 年生 復興に向けて 複雑な地域課題を 多面的に理解する
未来創造探究 総合的な学習の時間 [3 単位]	2 年生 復興に向けた 地域課題解決の 探究と実践
総合的な学習の時間 [3 単位]	3 年生 復興に向けた 探究成果発表と 自らの進路実現

地域の現状と課題を知る

演劇制作を通じた各種スキル・人間性の育成



## ○ 震災・原発事故による課題との遭遇

震災時に小学校2～4年生であった生徒たちは、双葉郡の課題、特に震災時にどのようなことがあり、大人はどのような悲しさや悔しさに直面をしたのかを知っているようで知らない。

現実を知り、受け止めるところから学びを始めて行くために、1年次では入学後に各町村へ複数回に分けてバスで訪問する「課題遭遇」の機会を設定。

- ① ふたば未来学園で学習するにあたり、双葉郡の現状を実際に自分の目で見て、この地で学ぶ意義を考える。
- ② 被災・避難者の声に耳を傾け、震災と原発事故の教訓、双葉郡・福島ならではの課題を知る。



## ○ 地域の復興の課題を見つめる

一年次の生徒達は、7名のグループに分かれ、町役場、商店、東京電力等を訪ね、復興に向けて地域が抱えている課題を調査し、その課題を演劇の台本にまとめて表現する。

演劇制作のポイントは、「立場や考え方の違いによる難しい課題をそのまま表現する」こと、そして「全国や世界の人に福島の問題を理解してもらえる、共感してもらえる部分を見つけ出し、広げていく表現をする」こと。30時間弱の授業時間、生徒たちは悩みぬきながら表現を創り上げた。

多面的に復興の課題を見つめ、自らの言葉で語ることは、2、3年次で生徒自ら復興のプロジェクトを企画・実施していく学習の土台となる。



○ 「未来創造探究」で地域復興の探究と実践を通して、持続可能な社会を考える

1年次に見つめた地域課題を踏まえ、2・3年次の合計6単位で課題解決の探究と実践に取り組む。

1. 福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について探究しつつ、地域再生の実践を行う。
2. 国内外での研究成果発表や提言を行う（復興庁、環境省、自治体等）

原子力防災探究	原子力災害によって失われた地域コミュニティの再構築について研究する。
メディア・コミュニケーション探究	海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を研究する。
再生可能エネルギー探究	福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について研究する。
アグリ・ビジネス探究	福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを研究する。
スポーツと健康探究	福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を研究する。
福祉と健康探究	福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を研究する。

2・3年次には、企業・大学・NPO等と連携しながら地域再生の実践と探究を行う（週3時間）

## 原子力防災探究班

原子力災害によって経済基盤もインフラもコミュニティも崩壊した双葉郡を持続可能な地域へと復興させることを目指して、地域住民と作業員に分断されたコミュニティを再構築する「ファーマーズ・マーケット」を農家と連携して開催する等、様々な実践を行い、世界の課題とも紐付けながら考察している。



## メディア・コミュニケーション探究班

福島・双葉郡・本校に対するインターネット上の情報を分析。誤った情報も溢れている中で、海外を含めた異文化の人々に正しい情報を伝えていく有効な方策を探究。映像を制作してYoutubeで発信したり、twitterアカウントを運用して日常の情報を伝える等、積極的にインターネットを通じて情報を発信している。



## 再生可能エネルギー探究班

原子力発電所の事故による地域の基幹産業の喪失と、福島＝原発事故という負のイメージを払拭することを目指して、復興作業の車で渋滞する国道で振動を利用した発電に挑戦したり、ドイツで視察した光熱費がかからないパッシブハウスを3Dプリンターで試作するなど、未来の社会を構想している。



## アグリ・ビジネス探究班

基幹産業である農業が大きな被害を受けた双葉郡の復興に向けて、地域の農家や商店等と密に連携しながら、銘菓の復活や、特産物を活用した新商品の開発、地域の伝統の味をいかした学校給食の提供等、フードビジネス、リサーチ&コミュニケーション、アグリの3つのテーマ・8つのプロジェクトを実践した。



## ○ 1年次 ベラルーシ、ドイツ

チェルノブイリ原発事故の被害を受けたベラルーシを訪問し、事故から30年後の状況を視察する。また、ドイツを訪問し、福島について発信するとともに、再生可能エネルギーによる街作りを視察する。

## ○ 2年次 ニューヨーク・国連本部等

各探究班の代表が米国ニューヨークの国連本部を訪問し、国連本部職員と意見交換を行う。また、コロンビア大の学生や、世界の同世代との意見交換も行い、8日間の滞在中に8回のプレゼンテーションの機会がある。

自身に取り組む地域課題解決の探究内容と、取り組みから見出した世界への提言を発信するとともに、福島の風評の問題と世界における難民を巡るフェイクニュースなど、福島と世界の課題を重ね合わせて意見交換を行い、持続可能な世界実現の課題意識を深めて持ち帰り、さらに未来創造探究を深めていく機会としている。

なお、NY研修はプロジェクト型で実施しており、渡航3ヶ月前からの事前学習やプレゼンテーション準備、現地でのプログラムの検討、移動は生徒たち自身が行う形としている。



数ヶ月の事前学習



コロンビア大大学院生との議論



国連本部において幹部職員や各国国連Youth Delegateと意見交換(左)  
NY研修において、国連総会議場で世界の同世代と難民問題を議論(右)

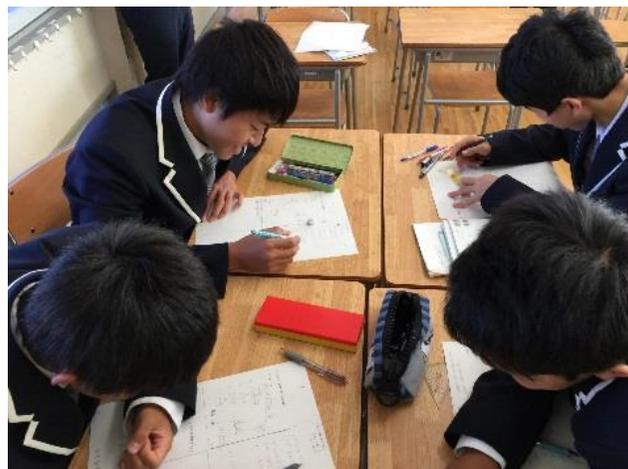


事前の議論や準備では  
Facebookのグループも活用

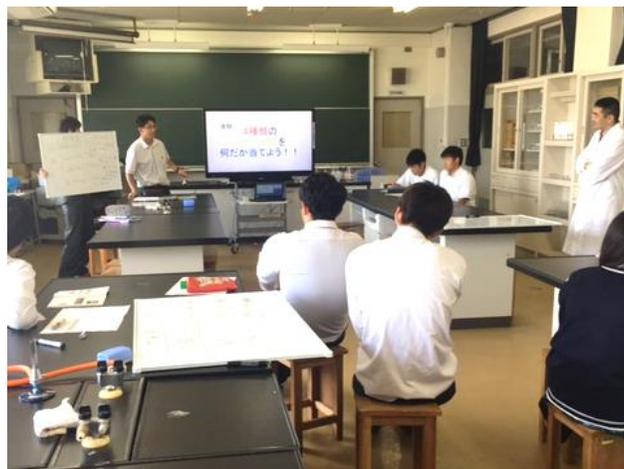


## ○ 各教科での「主体的・対話的で深い学び」の展開

探究学習でのPBL、「主体的・対話的で深い学び」により身に付けたスキルをもとに、各教科においても、各担当教員が「主体的・対話的で深い学び」にチャレンジしており、様々な試みがなされている。



学習の定着率は、「講義」は5%であるのに対し、「他の人に教える」のは90%であることを踏まえてワールドカフェの手法を導入した数学の授業。



解答を教員が示したうえで、生徒たちはそこへ至るロジックや、適切な実験方法を検討・検証する化学の授業。



「気候区分を覚えてあてはめる」のではなく「データの分析・比較により、自分たちで気候区分を作成する」地理の授業。



一人一台配付しているタブレットPCは日常的に活用



英語の授業でも即興演劇で実践力を育成



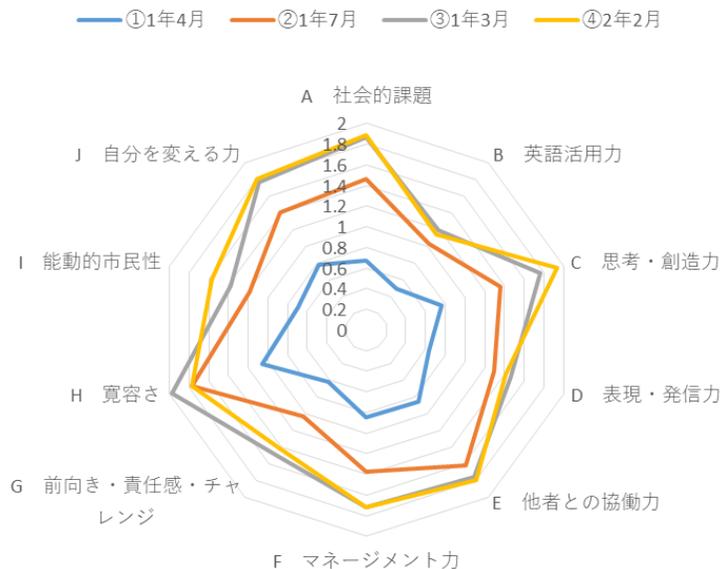
数列の単元の最後に、数学で社会問題に挑む、公民との合科授業。

## ○ ルーブリックの各資質・能力についての自己評価

生徒たちは半年に1回、ルーブリックの各資質・能力について自己評価を実施。その際に、自身の成長要因についても自己分析。また、生徒たちが相互に自己評価結果を見せ合い自身の評価の修正を行うピア・レビューを行っている。これによって、ルーブリックにも盛り込まれているメタ認知力を高めることも目指している。

年度当初、全教員が「育成したい能力」として共通認識を強く持った「寛容さ、他者を大切に思う心」に沿う形で表出しており、本校生徒に対峙してきた教員の姿勢が如実に表れているともみることができる。

ルーブリック調査(一期生116名平均)



## ○ 一期生進路実績(H30.3卒業生全140名)

### 四年制大学 67名 (国公立大学11名)

福島県立医科大学、東北大学、福島大学(4)、筑波大学(2)、立教大学(3)、明治大学(2)、津田塾大学、青山学院大学、中央大学、法政大学、立命館大学 等

### 短期大学 8名

山形県立米沢女子短期大学、いわき短期大学 等

### 専修学校 39名

磐城共立高等看護学院 等

### 就職 32名

県内(11)、県外15、プロ・実業団(6)

### 海外留学(サッカー)3名

### その他 2名

有志の生徒は、政府主催の地方創生政策アイデアコンテストに挑戦し、全国900件の提案の中から2年連続で入賞し、表彰を受けている。



地方創生政策アイデアコンテスト(内閣府主催)2年連続入賞

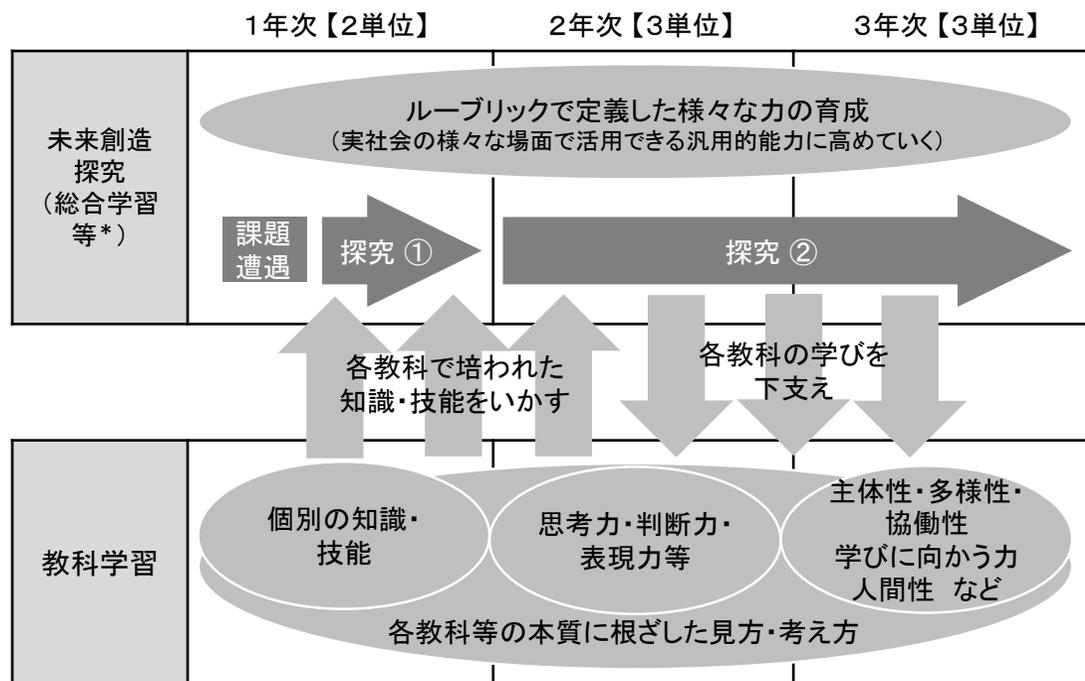
## ○ 汎用的能力に高めるための カリキュラム全体の軸となる総合学習

- ✓ ルーブリックで定義された資質能力は、各教科の学習のみで培われる知識・技能には収まらない、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力。これは実社会における横断的・総合的な問題解決に主体的に取り組み、様々な挑戦や失敗の経験も積まなければ身に付かない。
- ✓ カリキュラム全体で汎用的能力に高めていくための軸となる時間として、総合学習等の合計8単位を位置づけ。卒業までの3年間で2回の探究のプロセスを経験する。  
 探究① 複雑な地域課題を多面的に理解する  
 探究② 地域課題解決の探究と実践から、自らの進路実現へ

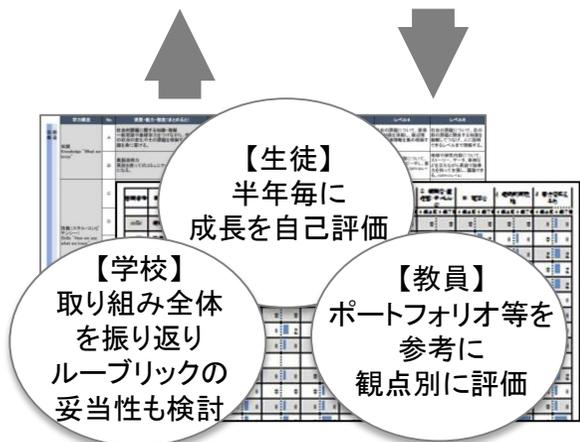
## ○ 総合学習での探究と 各教科のつながりを意図的に設定

- ✓ いずれの探究においても、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的なアクティブ・ラーニングを徹底的に実践。この中で、各教科で身に付いた、ものの見方・考え方、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、学びに向かう力や人間性などが発揮され、汎用的な能力に高まっていくことを目指す。
- ✓ 逆に、カリキュラムの軸となる探究があるからこそ、各教科の学習の意欲が喚起され、各教科の学習活動が確かに下支えされていく。また、内容面に関する知識も、各教科において発展的に学習し、深められていく。
- ✓ 総合的な学習の時間におけるアクティブ・ラーニングと各教科のつながりを意図的に生み出すことで、各教科の学習も表面的な知識や技能の習得にとどまらない、アクティブ・ラーニングによるより深い学習となる相互作用を期待。
- ✓ 学校全体の意識を統一するルーブリックの設定と、カリキュラムマネジメントを土台とした、アクティブ・ラーニングの展開を重視。

## ふたば未来学園におけるカリキュラム・マネジメント



\* 1年次「産業社会と人間」2単位、2年次「総合的な学習の時間」3単位、3年次「総合的な学習の時間」3単位



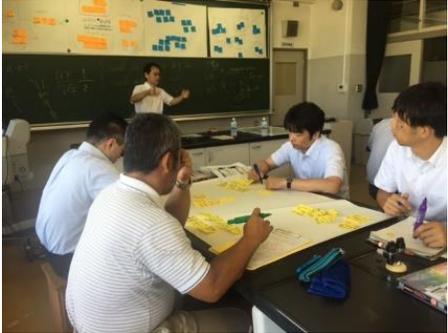
文部科学省は、教員向け解説動画において本校の取り組みを、学習指導要領改訂や高大接続改革を先取りするカリキュラム・マネジメントの好例として、全国の学校へ紹介している。



## 重ねられている教員研修

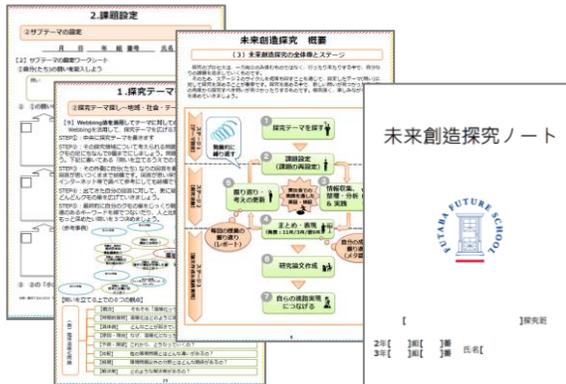
アクティブ・ラーニングの展開に向けて、**日常的な教員研修を実施**。先進校視察等の校外研修に加え、校内でも教員同士による議論等を実施。

これまでに招へいた講師は、鈴木寛文部科学大臣補佐官、田村学文科省視学官、田熊美保OECD教育局シニアアナリスト、劇作家平田オリザ氏等。また、教員自主勉強会も重ねられている。



## 探究教材の開発(未来創造探究ノート)

全教員が分担して指導する「未来創造探究」において、年間を通じて効率的、効果的に授業を展開し、生徒たちの学びを深めていくために、探究の道しるべとなる情報や、各種ワークシート等を掲載した『未来創造探究ノート』を作成。生徒はポートフォリオに挟み、各自がカスタマイズして活用。

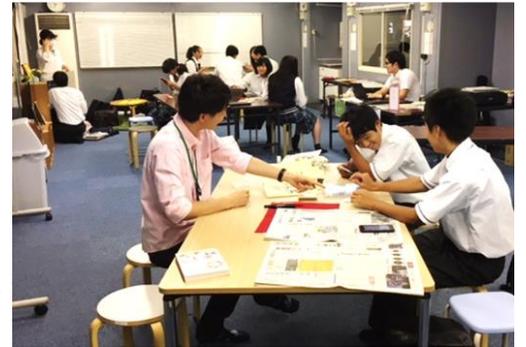


## 双葉みらいラボ(NPOカタリバ)

教員のみでは対応出来ない、地域と協働する学習や、様々な学力層の生徒たちの学習を支えるために、平成29年度より**認定特定非営利活動法人カタリバの職員が校内に常駐**。授業内でのTTでの指導や放課後学習室の運営を行っている。



- 【名称】 みらいラボ
- 【開所】 2017.9.28
- 【開設時間】 放課後  
~20:00
- 【主催】 NPOカタリバ



### 【実施内容】

1. 地域課題解決学習の支援・協働  
「原子力災害からの復興」という大テーマのもと、各班に分かれて進める地域課題解決学習の授業支援・協働。
2. 放課後学習支援  
避難生活で学習に遅れが出た生徒の学び直しや、目標とする進路実現に向けた、個々の生徒に応じた放課後学習支援。
3. 対話によるキャリア学習支援  
日々の悩みや進路のこと、震災の経験などを安心して相談できる環境の整備。意欲的に学ぶ学生や社会人との出会いづくり。

## ○全教員に加え、生徒も参加して回すPDCAサイクル

毎月の未来研究会(教員研修)の実施に加え、半年に一回、運営指導委員会とも関連づけて全教員でのカリキュラム改善の議論を実施。今年度は生徒も参画して議論を行った。多面的な視点によるカリキュラムの改善が行われたことに加え、生徒の主体性を引き出すとともに、メタ認知の力を伸ばしていく副次的な効果も生まれている。



左:教員によるカリキュラム改善の議論(平成28年7月25日)  
右:生徒によるカリキュラム改善の議論(平成28年8月17日)



SGH運営指導委員会の一部に生徒も参加し議論(平成28年8月22日)

イノベーションスクール参加生徒があげた未来創造探究の課題(2年生)	
大項目	小項目
やる気	個人差 やる気 温度差 熱意がない人が 受け身 誰かがやってくれ 我事化してない。
テーマ	動機づけ 土台をもう少し 実行力
個人	知識が足りない。 知識不足 個性がぶつれて 0-1の言しさ。
2年未来創造探究	暑い 1人1人で課題を ない。めっちゃか warm head cool やらされてる感 期待とかプレッ やる気格差 なんとなんとな アクワドキドキ 本気でぶつか 環境

No.	項目	意見
生徒の主体性に関すること		
1	探究(提案)計画を各班リーダーに任せる。 各探究班で様のコミュニケーションをとる。リーダー会議を設ける。 生徒をリーダー、打ち合わせ。振り返りを行う。 生徒が学習スケジュールを作る。 自分たちで議事録を作る。発言の濃度を確認する。 グループ内の役割を明確にする(リーダー役) ちがう探究班の生徒同士で報告会を行う。	探究(提案)計画を各班リーダーに任せる。 各探究班で様のコミュニケーションをとる。リーダー会議を設ける。 生徒をリーダー、打ち合わせ。振り返りを行う。 生徒が学習スケジュールを作る。 自分たちで議事録を作る。発言の濃度を確認する。 グループ内の役割を明確にする(リーダー役) ちがう探究班の生徒同士で報告会を行う。
2	生徒の目的意識に合わせた、テーマの再編を検討する	もう一度探究テーマを練り直す。 生徒集団を限定する。系列+レベルごとに 生徒の希望をとりなおして再編成する。 学校として目標を下げたコンテンツにする。 一教科の課題研究(上位はそれ自体を一つの集団にする) 一授業のテーマへ 距離を覚える。バックトゥザフューチャー2。ターミネーター 生徒の目的に応じたプログラムにする(教科:系列の課題/研究を深める) 探究班員の人数を減らす。(福祉30人→13人)
3	実社会の課題と連携する機会を確保し充実させる	行政と協働する。コンテンツ(6つの班の大テーマ)を定期的に実行のため協議する。 各テーマごとモニターを作る。(いる班も必ずであると思いますが)
内容の深化に関すること		
4	段階的に知識と思考の深まりを生み出す学習計画の設計を行う	テーマについての知識を学ぶ精選を段階的に計画(100字→2000→4000) 新聞を読み比べて意見立場によって分類して見る。 賛成→反対→賛成→反対の意見を繰り返す。 実験を最初にやってみる。その後、教科書を読ませる。
5	教科との結びつきをより強化する	教科学習を探究と関連付ける。 担当授業の中で運動する探究の内容を扱う。

教員・生徒でカリキュラムの課題と解決策を議論し全体で共有

SGH運営指導委員指摘ポイント抜粋(メモ)

平成27年10月14日  
福島県立ふたば未来学園高等学校

(指摘会議録)  
① SGH運営指導委員会(2017年8月25日)  
② SGH運営指導委員・教員意見交換会(2017年8月25日)  
③ 安積委員意見交換会(2017年9月9日)

学習評価

(全般)  
1. カリキュラム、指導法、評価は三位一体であり、「妥当性・信頼性ある学習評価」をデザインする時間に投資し、コンセンサスを得ることが重要。個別学習者のニーズと、他校の一貫性の双方を満たすこと。評価者間での一貫性・透明性も重要。その際下記の観点を踏まえてベストな評価法を組み合わせることが必要。(②出題)  
・ 妥当性: 本場に開いた項目が揃っているか  
・ 信頼性: 何度計測しても同じ結果が出るか  
・ 透明性: ループブックで高い透明性が確保されている  
・ ユーザビリティ: 目的に照らして使われているか  
・ リソース: 資金、マンパワー、教員・生徒の時間の負担

ルーブリックの活用について

(分析面)  
1. 本校のルーブリックのレベル1~5は、比例尺度となっており、平均や伸びを見るだけでは意味はない。比例尺度を見るためには(Deep Learning 研修会の資料のように)實質能力を細分化して「良く出来る→出来ない」という尺度で測ることになるが、日常の指導に使いやすい尺度としては難しい。本校のルーブリックは日常の指導に使いやすいという観点で見ると課題がある。

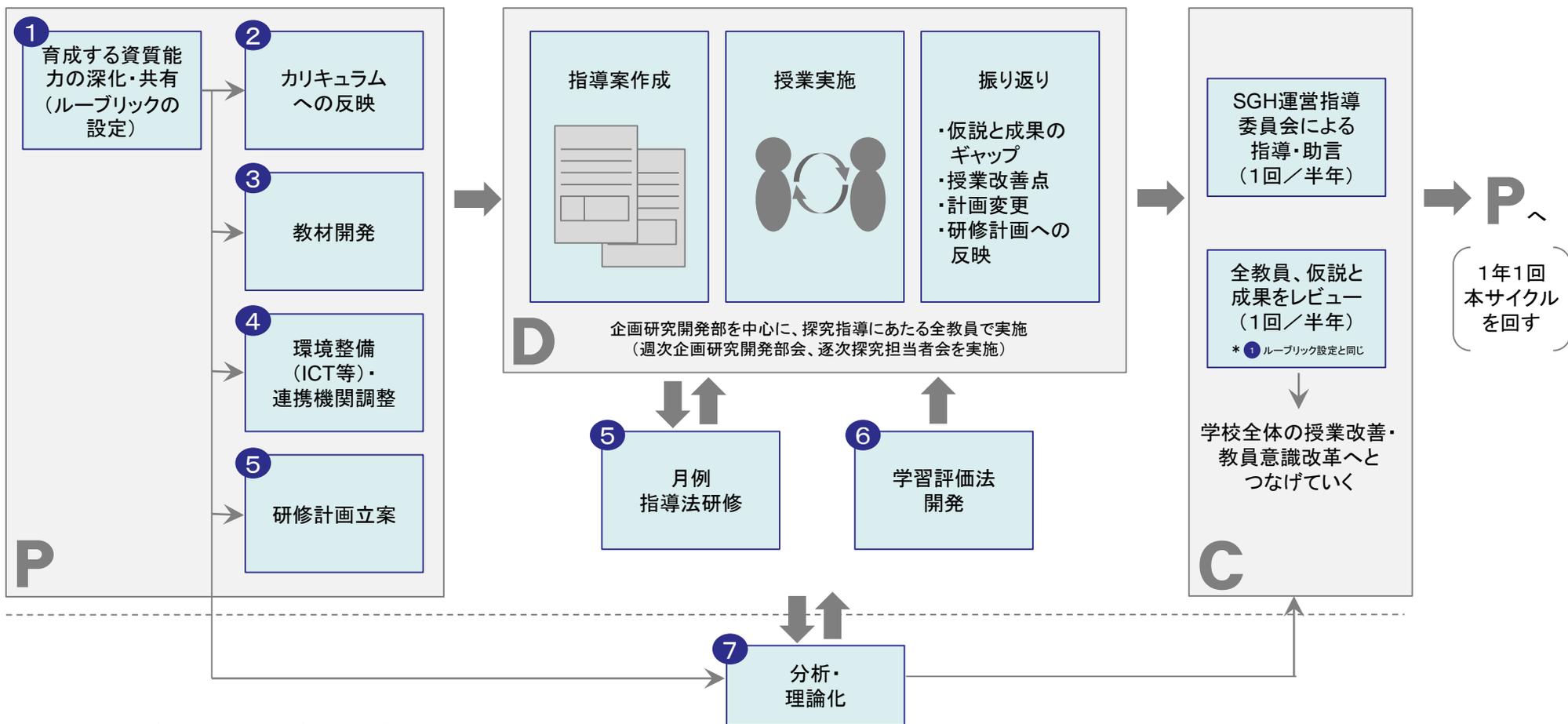
運営指導委員会でも引き続き議論し、カリキュラムの改善策を明確化して逐次反映

Collaboration  
Futaba Future School

④ 自己評価と教員評価を兼ね合わせて考えさせる機会(②出題)  
⑤ 自己評価と教員評価を兼ね合わせて考えさせる機会(②出題)  
として次の学習目標の検討に生徒自身が参加していくことも有効(②出題)

## ○ カリキュラム・マネジメントのサイクル

- 企画研究開発部を中心としながらも、全教員で育成する資質能力の設定を行うなど全校体制で研究開発を実施。



## ○ スケジュール（各年度の重点）

※ 別途、仮説に示す4つの育成コンピテンシーの重点を各年度で設定

H 27(1年目)	H 28(2年目)	H 29(3年目)	H 30(4年目)	H 31(5年目)
(1) ルーブリック設定		(3) 教材開発		
(2) カリキュラム開発		(6) 学習評価法開発		
(4-1) 連携機関調整	(4-2) 環境整備（ICT等）			
(5) 指導法開発			(7) 分析・理論化	

本校での取り組みを、県内の各校の参考として頂くべく、下記のように各種の機会をとらえて成果の普及に取り組んでいる。

- 教育課程講習会等の機会を捉えて、本校の実践と学習指導要領改訂の方向性について、重ね合わせつつ紹介し、研究協議の参考として頂いた
- 県教育センター主催の研修に講師として出席
- 平成29年度、30年度には福島県主催で本校を会場として、県内全高校の教員を対象としたアクティブ・ラーニング研修会を実施。

## 平成28年度福島県高等学校教育課程講習会

### 【1 目 的】

高等学校学習指導要領の内容を基に、言語活動を充実させ、課題解決能力を育成するための指導力の向上を図るとともに、目標に準拠した観点別評価の方法を含めた教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

【2 主 催】 文部科学省・福島県教育委員会

【3 実施期間】 平成27年度から平成29年度に実施

【4 対 象】 全ての県立高等学校教諭



## 福島県アクティブ・ラーナー教員養成プロジェクト 平成29年度・平成30年度ふたば未来学園研修

### 【1 目 的】

生徒をアクティブ・ラーナーとして育成するための一助としてふたば未来学園高等学校の教育活動について現地で研修する

【2 主 催】 福島県教育委員会

【3 実施日程】 平成29年秋、平成30年秋

【4 対 象】 各年度とも各県立学校から1名（授業改善担当教諭及び管理職）



3ヶ年の本校カリキュラムが一巡し、全教職員体制で学校外の多様な主体とも密に連携しながら実践してきたことで、下記の成果が得られた。一方で、さらに精度を高めていくべき課題も見えている。

## ○ 成果

- ① 探究学習が汎用的な資質・能力の育成につながるとともに、生き方を見出し、進路にも結びつくことを実証
- ② 地域での課題解決の探究と結びつけ、地域の課題と重ね合わせながらグローバルな課題に向き合う新しいタイプの海外研修プログラム開発
- ③ 演劇によるコミュニケーション教育、地域課題解決型学習(PBL)、キャリア教育、スキル学習、海外研修が有機的につながった3年間の探究カリキュラムを開発し、学習指導要領の範囲内で実践
- ④ ルーブリックを起点としたカリキュラムマネジメントの先行実施
- ⑤ 校内常駐NPOや大学、地域住民、企業など多様な主体との協働による教育体制構築

## ○ 課題

- ① ステレオタイプの課題解決策に留まらない、実社会の壁に向きあった、本質的・普遍的な視点での更なる思考の深まりが求められる
- ② 多様な利害や価値観の対立を乗り越え、共存を図る市民性やコミュニケーション能力の育成が求められる
- ③ 自らを振り返り変えていく力(メタ認知)とキャリア意識の育成が求められる
- ④ 批判的に文章を読み、記述によって考えを表現する力の更なる向上が求められる  
(ディスカッションやプレゼンテーションの力に比して課題がある)
- ⑤ 生徒たちの成長の背骨となる探究と、各教科の往還によって学びが深まる、教育課程全体の構造化と実践の質を高めていくことが必要
- ⑥ ルーブリックによる評価方法の改善と、評価結果の活用を検討が必要

グローバルな視点で、  
地域や世界で活躍できる  
リーダーを育成します

## 開校

2019.4

6年間中高一貫教育 福島県立ふたば未来学園中学校 生徒募集!

特色① 深い学び・高い学力	国語、数学は一般の中学校より多くの授業時間を確保し、読解力や論理的思考力を伸ばす。英語は、深い学びを多くの科目で行います。
特色② 実践力をみがく「未来創造学」	理系や文系科目も実践を重視するプロジェクトを企画・実施し、課題解決や社会人への就職につながる力を伸ばします。
特色③ 世界に飛び出す学び	福島の国際「グローバル・スタディ」や海外研修を通して世界を学ぶ機会を創出し、グローバルな課題解決能力を伸ばします。
特色④ 未来の主人公となる学び	基礎から応用まで幅広い授業科目、各科目のリーダーやマネージャーを育成し、進路やキャリアデザイン、進路や就職活動にもつながります。

※詳しくは募集要項、入試要項などは募集ホームページをご覧ください。

### 深い学び・高い学力

- 各教科でのアクティブ・ラーニング
- 習熟度別学習
- 国語・数学の増時

育成する資質・能力

- 数学的思考力
- 読解力、論理的思考力

上級学校への接続

一般受験  
に対応する  
高い学力

想定する卒業後  
進路

海外留学

超難関国  
公立大

医学部

難関私立  
大

等

“変革者”  
として活躍

グローバルに考  
え、世界で活躍  
する人材

新たなビジョンを  
示し  
課題解決をけん引  
するリーダー

新たな産業を創  
出する  
イノベーター

地域で持続可能  
な社会づくりを  
進めるリーダー

トップレベルで  
活躍する  
アスリート

### 世界に飛び出す学び

- グローバル・スタディ科の開講
- 海外研修での発信

- 実践的英語力
- グローバルな視野と  
異文化コミュニケーション  
能力

### 実践力をみがく「未来創造学」

- 「未来創造学」「未来創造探究(高校)」  
での現実社会での課題解決実践と、  
自らの生き方の探究

- 思考力、協働力、  
マネジメント力  
能動的市民としての社  
会的課題への関心

AO・  
推薦入試  
に対応する  
深い思考  
力と表現  
力等

### 未来の主人公となる学び

- 哲学・熟議
- リーダー学
- 演劇・コミュニケーション

- 創造性、表現力、コミュ  
ニケーション力  
自己・他者理解と豊か  
な人間性、リーダーとし  
ての資質能力

## 1. 実践力をみがく「未来創造学」



## 2. 世界に飛び出す学び



## 3. 深い学び・高い学力



## 4. 未来の主人公となる学び

